

★\*...-----\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.10.19 vol.05

★\*...-----\*★

本メールマガジンは、スターリイマンのお話の創作者  
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて  
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆  
配信停止をご希望の方は、お手数ですが  
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

---

☆ごあいさつ☆

---

秋の深まりを感じる今日この頃ですが、  
皆様、お変わりございませんか？

もうすぐ、北の空から、紅葉の便りが届く  
美しい季節になって来ますね。  
美味しい秋の味覚と一緒に楽しみ満載。

さあ！幸せの恵みを頂きながら  
ありがたい笑顔が輝きますように…

さて、お二人目の今を生きるスターリイマンは、  
世のため人のために生きる志を教えていらっしゃる  
志ネットワーク 主宰の上甲晃氏のご紹介です。  
<http://www.kokorozashi.net/>

それでは、第1章 上甲晃先生との出会いから  
お楽しみ頂けたら、嬉しいです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

☆第2話 世のため人のために生きる志を教える ☆

志ネットワーク 主宰 上甲 晃 氏

第1章 上甲晃先生との出会い

---

2009年5月20日のことでした。  
新宿の京王プラザホテルにて、  
致知出版社主催の上甲晃先生の講演会がありました。

私たち三人を応援してくださっている、  
沖縄の実業家の淵辺美紀さんと一緒に、  
その講演会に参加させて頂きました。

恥ずかしながら、私たちは、  
淵辺さんからお教え頂くまで、  
上甲先生を存じ上げませんでした。

その日、初めてお話をお伺いして、  
上甲先生から醸し出される凜とした佇まいと  
温かなお人柄から発せられる一言一言が、  
真っ直ぐに心に染み込んでいきました。

松下幸之助氏から学んだ志や  
人としての生き方を自らの人生を懸けて  
伝え続けておられる想いに、幾度となく感動が溢れ、  
松下幸之助氏に対する深い尊敬とご恩を感じました。

講演会終了後、致知出版社の藤尾秀昭社長様のご配慮を賜り  
控え室にて上甲先生にお会いさせて頂く事が出来ました。

私たち三人を清々しい笑顔で迎えてくださった先生は、  
この年に、夫が絵画活動30年の記念として描いた  
日本の四季の輝き「春・夏・秋・冬」の4作品の版画作品を  
細部まで丁寧に観てくださったのです。  
そして、「美しい良い絵ですね」とお褒めいただき、  
短い時間ではございましたが、記憶に残る出会いとなりました。

それから間もない6月に、また淵辺さんと一緒に、  
上甲先生にお会いする機会を頂きました。  
その時、「日本人としての誇れるよい国日本を  
志のある人々の力で創りたい」との、  
上甲先生の覚悟の強い思いをお伺いさせて頂きました。

その後、7月19日に日比谷公会堂にて、  
上甲先生のこの志の想いに共感した皆様が、  
全国からお集まりになることを知り、  
先生の命がけの志の想いを直接お聞きしたいと願い、  
私たち3人は、日比谷公会堂にお伺いしました。

当日。全国からバスをチャーターして馳せ参じておられ、会場はお集まりの方々の熱気に溢れかえっていました。

上甲先生と志をひとつにされた方々が  
お一人お一人壇上で思いを述べられ、  
そして最後に、上甲先生がお集まりの皆様へ、  
真心の礼を尽くされ、深々とお辞儀をしながら  
「ありがとう」と、お礼を伝えました。

その時、私の心の目には、確かに松下幸之助氏が、  
上甲先生の背から、ありがとうと  
皆様にお礼を言いながら、立っている姿が映ったのでした。  
思わず、顔を覆って号泣してしまいました。

こんなにも松下幸之助氏は、  
この今の日本を憂い、心配している思いを感じて、  
なんてすごい強い志なんだと…

松下幸之助氏も上甲先生も  
スターリィマンの姿、そのものでした。

私たち3人の力は、小さな小さなことかも知れない。  
でも、何かお役に立ちたい。  
日本を愛する強い強い思いが体中を駆け巡っていました。

2009年10月31日。ホテルオークラで開催された  
「よい国つくろう日本志民会議」設立大会にて、  
「志の旅路」という絵とお話を創作して、娘が語り、  
「みんなの心と心をつなぐアートで日本中の志をつないでいく」活動を  
1500名の方々の前で発表をさせて頂きました。

◎関連ブログ/大切な日本の未来のために◎

<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/2009/11/post-2d27.html>

それからしばらく経った2011年。

東日本大震災で被災した子ども達に  
スターリィマンの紙芝居を贈る活動を  
7月7日に沖縄からスタートさせることを、  
上甲先生にご報告させて頂くと、  
7月7日付で一通のお葉書を頂きました。

---

お久しぶりです。

日本火急の時に、スターリイマン飛び出すニュース、  
大変うれしく思います。

これから、大活躍されることを心からお祈りします。

私達のグループも、マトを絞り、きめ細かく息長くを合言葉に、  
第12次まで救援隊を派遣し、

8月にはファミリーボランティア隊も編成します。

共にがんばりましょう。

---

心励まされる先生からお便りを頂いた後、

私たちは、8月1日～4日まで上甲先生が塾長をされている

志ネットワークの青年塾のファミリーボランティアの皆様と

陸前高田や気仙沼大島で活動を共にさせて頂き、

同時に東北での紙芝居の活動がスタートしました。

この時、上甲先生から活動のお誘いを頂いたことが、

一つひとつの東北のご縁がつながる大きなきっかけとなりました。

---

先日は久しぶりに、お三人のお姿に接することが出来、  
大変うれしかったです。

陸前高田の一本松の絵、すばらしい出来映えでした。

人々に勇気を与えるお役目、光り輝いています。

～2011年12月12日の上甲先生からのお便りより～

---

その後、大変ご無沙汰致しております。

「スターリイマンの9つの風船だより」を通じ、

ご一家が引き続き、被災地の方々のために、

献身的に尽力されている様子を知り、大いに敬意を表します。

～2012年7月27日の上甲先生からのお便りより～

---

上甲先生には何度も励ましのお便りを頂き、

その都度、私たちは前に進む勇気や力を頂きました。

それだけではありません。

現在の活動が継続出来るようにと上甲先生から  
松下政経塾出身のTFS国際理税理士法人の山崎泰先生をご紹介頂き、  
昨年11月5日に「一般社団法人スターリイマンからの贈りもの」  
の設立に多大なるご支援を頂きました。

活動の趣旨にご賛同頂いた心ある方々に会員になって頂き、  
皆様のお力添えのおかげで、今日まで継続する事が出来ています。  
数え切れない上甲先生のご恩に感謝でいっぱいです。

今年も10月31日がもうすぐやって来ます。  
上甲先生のお誕生日。  
私たち3人が、2009年に  
「よい国つくろう日本志民会議」設立大会にて、  
アートでつなぐ志に生きて5年。

夫は絵画活動35年に。  
上甲先生と出会ったことで、私たちの夢は、志となり、  
この道を一步一步ずつ、これからも歩み続けて行きます。  
みんなが幸せになりますようにと祈りながら…

---

☆次回予告☆

第2話 世のため人のために生きる志を教える  
第2章は、10月29日(火)配信予定です!

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
お二人目となる上甲晃先生との出会いは、  
いかがだったでしょうか?

次回の第2章では、  
上甲先生にインタビューさせていただいた  
上甲先生の志の原風景についてお伝えいたします。

配信は、10月29日(火)を予定しています。  
皆様、どうぞお楽しみに☆

---

☆後記☆

---

私たちは、本日19日から27日まで、  
気仙沼、仙台、福島と紙芝居の活動に出かけて参ります。

上甲先生の志ネットワーク「青年塾」のファミリーボランティアの皆様と紙芝居の活動をスタートした時にご縁を頂いた、気仙沼本吉町の津谷保育所の千葉所長さん(前職)や馬籠幼稚園の及川園長先生(前職)やその地域の皆様が、私たちがお伺いするのを待ってくださいます。

ふるさとに帰るみたいに  
温かく私たちを迎えてくださる皆様にお会い出来るのが待ち遠しいです。

次回、29日配信のメールマガジンは、第2章 上甲晃先生の志の原風景をお届け致します。そして、東北の子ども達や地域の皆様の様子もご報告いたします。

それでは、行って来ます。  
感謝いっぱいです。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

☆「スターリマンカレンダー2014」ご予約受付中です☆

<http://www.dream-hasegawa.com/about/2014calender.pdf>

---

発信元:ドリーム工房☆はせがわ はせがわ芳見(よしみ)  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX:048-671-7708 e-mail:yoshimi@dream-hasegawa.com  
公式サイト <http://www.dream-hasegawa.com>  
ブログ <http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.10.29 vol.06

★\*.....\*★

本メールマガジンは、スターリマンのお話の創作者  
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて  
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆  
配信停止をご希望の方は、お手数ですが  
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

---

☆ごあいさつ☆

---

皆様、お変わりございませんか？  
ずいぶん寒くなって参りましたね。

10月も残すところあと2日。もうすぐ11月です。  
この一か月を振り返ると、また色んな出会いがありました。  
皆様はいかがでしたか？

特に19日～27日までの東北での紙芝居の活動では  
多くの素晴らしい出会いがありました。

お会いした皆様との温かいつながり、  
感動の涙、子どもたちの笑顔…  
忘れてはならない、かけがえのない大切な思い  
この出会いを胸に刻んで  
これからも生きて行こうと思いました。

さて、今回は、第2話「今を生きるスターリマンの物語」の  
第2章の上甲晃先生の家族の原風景です。

それでは、皆様、最後までお楽しみください。

---

☆第2話 世のため人のために生きる志を教える ☆

志ネットワーク 主宰 上甲 晃 氏

～第2章 上甲晃先生の心の原風景～

---

上甲先生との出会いから、  
一冊の本を手に入れました。

それは「志を教える 松下幸之助の人づくり」(致知出版社)です。  
[http://shop.chichi.co.jp/item\\_detail.command?item\\_cd=714](http://shop.chichi.co.jp/item_detail.command?item_cd=714)

この著書には、志について  
次のように記されています。

“志”とは  
自分だけの利益を追い求める  
野望・野心を超えて、  
みんなの利益を求める心です。

松下幸之助氏から学び、受け継ぎ、  
松下政経塾を定年前にお辞めになってまでも、  
まっすぐに志を貫く生き方を育んできた、  
上甲先生の志の原風景をお伺いしたいと願い、  
10月4日にインタビューをさせて頂きました。

---

Q1.上甲先生のご家族のことを教えてください。

---

私は、明治43年7月14日生まれの父「悦次」と、  
大正4年3月21日生まれの母「勝子」の  
3人兄妹の長男として、  
昭和16年10月31日、大阪で生まれました。  
私には妹が二人います。

父は高校の漢文と書道の教師でした。  
しかし、大学時代までずっと字が下手で、  
こんな字で先生になったら困るだろうと言われて、  
それから毎日、硯をすって、筆を握って、練習をし、  
書道の先生になった努力家でした。  
明治生まれの厳格で多くは喋らない人でした。

現在、私はデイリーメッセージを  
8000回以上、毎日続けていますが、  
父親のやり続ける姿勢と共通しているのを感じています。  
父の書は、今も玄関に飾っているんですよ。

母も大阪女子専門学校を卒業し、  
小学校の国語の教師をやっていました。  
母の両親は早くに亡くなったので、母は兄に育てられたそうです。



母は、吉田松陰の大ファンで、私が赤ん坊の時に、  
吉田松陰の書が入っている屏風の前で写した写真が残っていて、  
赤ん坊の時から吉田松陰の言葉を吹き込んでいたそうです。

私の家族は教員一家で、おじ、おば、いとこ、妹も先生でした。  
今、姪っ子2人も教師をしています。

---

## Q2.どんな子供時代でしたか？

---

生まれた時から、体が非常に弱く、  
小学校2年までに、今日が最後だと言われことが  
3回もありました。

母から聞いた話ですが、生まれてすぐに肺炎になって、  
その時、祖母が、どうせ死ぬんだったら、  
おっぱいを十分に飲ませて上げなさいと、みんなで母を抱えて、  
生まれたばかりの私に母が覆いかぶさるようにして、  
おっぱいを飲ませて、私は元気になったそうです。

2度目は、腸が飛び出すという病気になり、  
3度目は、戦後まもない時で、寄生虫が十二指腸にわき、  
もうダメだと言われながら、奇跡的に助かりました。

戦後の一番貧しい時代は、家で療養するのが当たり前で、  
母は私を育てるのに苦労したと思います。  
ここまで私が長生きするとは、当時の母は思わなかったと思いますよ。

小学校の通信簿にはよく「男らしく、はきはきと物を言いなさい」と書かれ、  
体が弱くて、友達付き合いも出来なくて、病弱な幼少期を過ごしました。

---

## Q3.夢を持ったのはいつ頃でしたか？その夢はどんな夢でしたか？

---

体が弱かった私に、  
父は「人間はペンで刀に勝る」という  
嬉しい言葉を言ってくれました。

小学校4年生の頃から、将来は朝日新聞の記者になって、  
編集長になるとずっと思っていました。  
なぜ朝日新聞か。我が家で購読していたからです。  
ジャーナリストになるのが、子供の頃からの夢でした。

どうしたら、朝日新聞に入れるかと父に聞くと、  
京都に京都大学があるから、そこを出たらなれると言われ、  
その時から京大を目指し一直線にがんばりました。

ところが、そのうちテレビが出て、子供ながらに、  
新聞は無くなりテレビの時代になるだろうと思い、  
京大に入学した頃は、朝日放送を、卒業する頃は、NHKを目指していました。

しかし、NHKは何となくお役所的な感じがしたので、  
その頃、文化的な作家の集まる宣伝部のあったサントリーに入ろうと、  
入社試験を受けることにしたんですが、  
最終試験で面接時間に遅刻して不合格になり、  
その後、松下電器に入社しました。

---

Q4.松下電器時代のことを教えてください。

---

松下電器に入社して、最初に配属になったのは、  
本社報道部でした。

運命を感じましたね。新聞記者になるのが私の夢でしたから…。  
社内報の記者になったのです。

社内の新聞は、当時10万部を発行していて、  
12年間ここに勤めました。その内の6年間は編集長でした。

この12年間で良かったと思ったことは、  
山下俊彦社長(当時)と出会えたことです。  
山下社長は、松下電器の空気を変えるために、  
松下家からではなく、一般社員から抜擢された方で、  
それも役職は、取締役の下から2番目で年齢も一番若かったのです。

私は、山下社長のイメージを  
社内に浸透させるキャンペーンを計画しました。  
そして、職場訪問を開始。

社長が訪問する職場を、花形の部署から順番に選ぶと、山下社長は、  
「それは違う。社内でいちばん陽のあたらない所から行く」と言われ、  
私の心に火がつかしましたね。

その後も社長の指示は、「いちばん職場環境の悪い所」  
「労働衛生上いちばん悪い所」と続きました。  
私は、そんな山下社長の思いに共感し、とてもやり甲斐を感じました。  
30代前半の時です。

また、山下社長の次の方針は、  
社内の人材交流を活発化するというので、  
同じ部署で長年勤めている人の部署変えを推進させました。

入社してから12年間、ずっと本社報道部にいた私も、  
電子レンジの営業課長に配属されました。

その時は、すごく苦労しましたね。  
上司からも部下からも、「新聞記者に物が売れるか」と言われて。  
しかし、3年半で全国トップの売り上げにしました。  
どうして出来たかと言うと、営業の経験がなかったから、  
固定観念がなく、物事を新しく考えられたのが良かったんです。

東京担当だった私は、販売会議を東京タワーで行いました。  
その会議では、東京タワーから下を見て、  
「こんなにたくさんの方が住んでいるのに、  
ここでこれだけしか売れない、ということはないだろう?」と…(笑)

当時、電子レンジは実演販売でした。  
東京は経費が他の地域より、10倍ぐらいかかってしまうため、  
経費を賭けないで販売できる方法を、色々考えました。

ある時、府中のビール工場内にホールがあることを知り、  
場所の提供をしてもらい代わりに、ビールの宣伝を行い、  
おつまみは電子レンジで温めるといった  
ビール会社と提携した販売を展開しました。

その結果、3年半で最下位だった売り上げをトップにして、  
当時の事業部長が自分の出した本の中で紹介してくれました。  
何事も無理と思ったら無理なんですよ。

そして、いよいよ次は、営業部長だと思っていた矢先に、  
松下政経塾への出向を命ぜられました。

私は一か月ほど行きたくない行きたくないでごねて、  
上司を困らせました。私は、海外に行きたかったのです。  
成績を上げたら、将来は海外営業部だと上司が兼ねてより言ってくれてまして…  
しかし、サラリーマンですから、会社の命令には逆らえません。

それから、1981年より松下政経塾へ。  
松下幸之助の元、多くの事を学びました。

---

Q5.松下幸之助氏との印象深いエピソードを教えてください。

---

松下電器に入社した時の訓示で、  
松下幸之助から聞いた言葉です。

「君はこの会社の一員や。  
しかし、一步会社を出ると、君らは社長や。  
自分の人生の経営者やで。  
君の人生の経営は君がやって行くんや。

君らは自分がしたい仕事をしたいと思うやろ。  
自分の好きな仕事、やり甲斐のある仕事。それは間違いや。  
若い時はどんな仕事を与えられても、  
その仕事を好きになることが大切や。

好きな仕事をしたいと思うのは、我がまま。  
若い時は人生経験がないから、  
何に向いているか、本当はわからない。  
どんな仕事を与えられても、「はい」わかりましたと言って、  
一所懸命にやる人にならなければならない。」

こうして、一つひとつ、人生の大事な生き方を  
松下幸之助は教えてくれました。

そう、松下幸之助のことを語られる上甲先生の瞳の奥が、  
きらきらと輝いていました。美しいと感動。  
私は思わずほろりしました。

それから上甲先生は、松下幸之助について、  
このように語って下さいました。

松下幸之助と云う人は、素直な人だった。  
30年間、素直になりたいと祈り続けていた。  
松下幸之助曰く、

「素直の名人は神様や。神様はすべてを受け入れる。  
すべての人にすべて平等に、恵みを与えている。  
素直の極致。あらゆる人を受け入れる。  
すべてを受け入れることが素直の名人や。

人は自分のことをわかってくれる人、  
理解してくれる人を良い人という。  
わかってくれない人は嫌な人。  
でも、神様はそういう分け隔てはない。  
それこそが、究極の真理だ。」と。

そして、  
「会社には、あんな人は辞めてほしい  
という人もいっぱいあって、眠れない夜を過ごした。

ある時ハッとした。天皇陛下も我慢しておられる。  
日本列島に住んでいる中には、悪い人もおるし、  
気に入らない人や、反抗する人もいる。  
でも日本から出てってくれと、天皇陛下は一言も言われない。

すべての人を受け入れておられる。そう考えた時に、  
一企業の社長である私が、あいつが良くて、  
あいつが悪いということが、許されると思うか。  
そう悟った時から、人を使うことが大胆になった。」  
とっておりました。

私は、松下政経塾で教育に苦しんだ分だけ、  
松下幸之助以外にも本当にいい人にお会いすることが出来ました。  
三浦綾子さん、曾野綾子さん、伝記作家の小島直記さんなどです。

小島先生には、「志の第1歩は人生のテーマを持つことだ」  
と教えて頂きました。ちょうど、松下政経塾の塾頭の時で、  
仕事のテーマは、どんどん浮かんできたが、  
自分にとっての人生のテーマを、その時に深く考えました。

仕事のテーマは、その仕事が終わると無くなる。  
しかし、人生のテーマは一生を通じて、追い求めるものであるから、  
この世を去るまで、私から離れることはありません。

松下政経塾での勤務は14年に及びました。  
54歳の時、「松下電器の本社に帰るように」との勤務命令。  
サラリーマンにとって、転勤は至上命令、背くことはできません。

私は、人生の岐路に立った。  
志をめざす上では、大きな試練でした。  
サラリーマンを続けている限り、  
いつも仕事のテーマに追われるばかりです。

松下政経塾で求めてきた仕事のテーマを、  
人生のテーマにしようと心に決め、退職し、  
公のために生きることにしました。

---

Q5.上甲先生の人生のテーマは何ですか？

---

私の人生のテーマは、  
「次代を担う青年を育てること」です。

さらに言えば、  
「この日本に、志の高い青年を  
一人でも増やしていくこと」です。

私は、松下電器退職後に志ネットワークを設立して、  
その後「青年塾」を創設し、志を持った青年たちの  
育成の人間教育をしています。  
【志ネットワーク 青年塾】 <http://www.kokorozashi.net/>

青年塾は、選考試験はありません。  
入りたいという人は、すべて受け入れています。  
なぜならば私は、「この世に無駄な人はひとりもない」  
と常に思っているからです。

この考えは、日本理化学工業の大山泰弘会長ともつながり、  
会長に「まさに同じ考えですね」と、  
同社の工場見学にお伺いさせて頂いた時に、お話しました。

私の人生の中で、良い出会いは、  
苦しい時、辛かった時に、ある。  
いい時は、自分に自信があるから、余り出会いがない。  
そんなこと知っている。わかっているといった気持ちが  
心の中に少しでもあると出会えないのです。

でも、本当に苦しい時は藁にもすがる思いで、  
救われたいと思うから、人に出会えるのですね。

私は、松下政経塾で非常に苦勞していた時に、  
マザーテレサの「逆境は人生の宝物」の言葉に救われ、  
マザーテレサに会いたいと思い、会うことが出来ました。

「求めれば会う」

立場があつて地位があるから会おうのではなく、  
会いたいという気持ちが強いから出会えるのだと思うのです。  
いい方々との出会いから、自分は育てられて、  
人間として大切なことを知りました。

人は真理に従っていけば、  
幸せに生きられるようになっていきます。  
では、真理とは何か？真理は難しくありません。  
真理を読み取って行くのが人生なのです。

私は、真理に素直に生きることが、  
究極の真理で、響き合う喜びを知りました。

私の最近の言葉は、  
「終生進化、進化し続ける」

自然の摂理だから、体は衰えるが、  
心は進化し続けます。

---

#### Q6.上甲先生の志の原点＝「松下幸之助氏に出逢ったこと」

---

インタビューの最後に、  
「上甲先生にとってのスターリイマンは誰ですか？」  
とご質問させていただきました。

少しの間があった後、「松下幸之助、ですね」と  
上甲先生は微笑みながらお答えくださいました。

「初めて出会った時に、松下幸之助の言葉と考え方が、  
ものすごく新鮮だった。知識は大学で教えてもらったけれど、  
人間としての生き方の根本は、松下幸之助に教えてもらった」

魂の奥深くから響くような上甲先生のお言葉に、  
上甲先生の中に輝くスターリイマンの存在を垣間みました。

1995年10月まで、松下政経塾塾頭、常務理事、副塾長を務めて、  
1996年4月、54歳の時に松下電器産業を退社。  
その後、世のため人のために生きることを願う人たちの絆を結ぶため、  
(有)志ネットワーク社を設立し、1997年、青年塾を設立。  
「志の高い国づくり」は日本人一人ひとりが、  
志高い生き方をすることから始まるとの考えに基づき、  
多くの教えを続けていらっしゃる上甲先生。

「志ネットワークを設立した54歳から今まで、  
寝込んだことがない。疲れた、しんどいと思ったことがない。  
なぜなら、魂が喜ぶ仕事しかないから。  
孫の家庭教師をして、孫とのコミュニケーションを大切にしている。  
それらがすべて私の生きがいです」

インタビューを終えて、地下鉄の駅で、  
上甲先生をお見送りしました。  
先生の後ろ姿は、軽やかで、踊っているように弾んでいました。  
爽やかな清い風が吹き抜けて行きました。

---

☆次回予告☆

第2話 世のため人のために生きる志を教える

第3章 上甲晃氏の感謝の風船レター

11月9日(土)配信予定です!

---

上甲晃先生の志の原風景は、  
いかがだったでしょうか?

3時間以上に及んだ上甲先生のインタビュー。  
その中でいただいたお言葉の一言一言は、  
何と私の魂にこうも響くのだろう…

そうきっと、私にとって、上甲先生のお言葉は、  
正に、スターリマンの心の声だったのです。

まだまだ、お伝えしたいことがたくさんあります。  
皆様に上甲先生の生の声をお聴きいただけるように、  
上甲先生ともいつか講演会をさせて頂けたら願っています。

さて、いよいよ第2話の最終章となる第3章では、  
上甲先生のスターリマンである松下幸之助氏への  
感謝の風船レターをお届けいたします。

どうぞ皆様、お楽しみに☆

---

☆後記☆

---

あと一週間で11月5日。  
スターリマンの26回目のお誕生日になります。

そして、今を生きるスターリマンの大山泰弘会長と  
講演会を開催させていただける記念すべき日でもあります。

心豊かなスターリマンのような皆様が、  
ご出席して下さるようです。



お申し込みいただきました皆様、  
本当にどうもありがとうございます！

それだけでも、わくわくなのに、  
もっと楽しいうれしいサプライズが  
待っているみたいです。

なんとって、夢を叶える9つの風船を届ける  
スターリィマンのお誕生日ですからね☆

ご出席の皆様にも、感動と感謝いっぱいの時間を  
お贈りしたいと準備しております。

残席は僅かとなっておりますので、  
もしご参加をご希望の方はお早めにお申し込みくださいね。  
<http://kokucheese.com/event/index/115745/>

それでは、皆様の笑顔輝く日々でありますように…願いながら  
本日も最後までお読み頂き、誠にありがとうございました。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆  
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

☆「スターリィマンカレンダー2014」数量限定にて販売中です☆  
<http://www.dream-hasegawa.com/about/2014calender.pdf>

---

発信元:ドリーム工房☆はせがわ はせがわ芳見(よしみ)  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX:048-671-7708 e-mail:yoshimi@dream-hasegawa.com  
公式サイト <http://www.dream-hasegawa.com>  
ブログ <http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

---

★\*...-----\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.11.09 vol.07

★\*...-----\*★

本メールマガジンは、スターリイマンのお話の創作者  
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて  
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆  
配信停止をご希望の方は、お手数ですが  
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

---

☆ごあいさつ☆

---

皆様、お元気ですか？  
ずいぶん秋も深まり、  
木々の葉たちがそれぞれの秋色になって  
美しく輝いていますね。

さて、私たち家族にとって、11月5日は  
毎年大切な娘とスターリイマンのお誕生日。

そして、26回となる今年のスターリイマンのお誕生日には、  
「今を生きるスターリイマンの講演会」を  
開催させていただきました。

ゲストに、9月9日から始めた  
このメールマガジンで最初にご紹介させて頂いた  
日本理化学工業の大山泰弘会長をお迎えし、  
「誰かのために生きる幸せ」をテーマにお話いただきました。

ご参加の皆様、会場をご提供して下さった  
ISFグループの皆様の温かい真心に支えられて、  
感謝と感動で幸せの笑顔いっぱい輝いた  
もう一生忘れられない素敵な記念日になりました。

スターリイマンの皆様、本当にありがとう♡  
そして、スターリイマン、大山会長、祐希ちゃん  
お誕生日おめでとう♡

当日の様子は、下記のブログよりご覧ください☆  
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/blog/2013/11/post-3fc8.html>

それでは、第2話「今を生きるスターリマンの物語」  
世のため人のために生きる志を教える  
志ネットワーク主宰 上甲晃先生の物語も  
本日でいよいよ最終章となりました。

第3章「スターリマンへの感謝の風船レター」  
どうぞ最後まで、お楽しみ頂けますと幸いです。

---

☆第2話 世のため人のために生きる志を教える ☆  
志ネットワーク 主宰 上甲 晃 氏

～第3章 スターリマンへの感謝の風船レター～

---

『私のスターリマン 松下幸之助』

かつて出身の大学で、講演したことがある。

「私は、大学時代、立派な先生方から、様々な教えを受けました。  
それはまことに知的な刺激に満ちたものでありました。  
しかし、“人間としていかに生きるべきか”について学んだのは、  
社会人になってから。さらに言えば、松下幸之助の教えから  
学んだものが大半でした」と話をした。

私の人生にとって、それほど松下幸之助の教えは  
影響力のあるものであった。

教えの内容は、理論的に高度で、新しいものではなかった。  
まことに平易で、当たり前のことばかりであった。

しかし、私は魂を揺さぶられ、  
目からうろこが落ちる思いをしたのである。

社会人になってから間もなく五十年、  
とりわけ私にとってありがたかったのは、  
四十歳から十年間、松下政経塾で勤務したために、  
松下幸之助から、直接、薫陶を受けることができたことである。

中でも、得難い経験は、松下幸之助が九十歳の時、  
もう一度、PHPの勉強をし直すと、  
八の付く日に八人で勉強会をすることになった。

末広がりを好む松下幸之助らしい発想だ。

私は幸い、八人のメンバーの一人に選ばれた。  
八日、十八日、二十八日に、京都・南禅寺の前にある  
松下真々庵に出掛けた。  
そしてほぼ一日、松下幸之助と話し合う機会を得たのだ。

勉強会の始まる時、必ず、松下幸之助は、  
真々庵の一角に自分で建立した“根源の社”に参った。  
社の前に丸い敷き石があり、そこに座って、  
ひたすら祈る姿は、今も臉に残っている。

ある時、聞いた。  
「毎日、何をそんなに真剣に  
祈っておられるのですか?」と。

答えは明快だった。  
「感謝と素直や」。

正直、何だそんな簡単なことかとは受け止められなかった。

しかし、今、「感謝と素直」こそ、生きる本質であり、  
生き方のコツだと深く納得するのである。

考えてみれば、生まれてきたことも、  
日々生き続けられることも、働けることも、  
すべては、「天のおかげ」、  
ありがたいとしか言いようがないのである。

天の恩恵があつてこそ、私達は生きていけるのである。  
だから、感謝は、命の本質を知ることと同じ意味である。

そして次に、「素直」である。  
私達は、うまくやったから、うまくいくのではない。  
天地自然の法則に素直に従った時にのみ、  
物事はうまくいくのだ。

そして、長く続くことは、すべて、  
天地自然の法則に従った時だけだ。

松下幸之助の言葉は、平易である。  
即ち、真理は、平易なのである。  
私は今、「真理は平凡の中にある」と言い続けている。

スターリイマンは、難しいことは言わない。  
スターリイマンは、感謝と素直な心を持つ人だ。

---

上甲先生のスターリマン。  
松下幸之助氏への感謝の風船レターは、  
いかがでしたでしょうか？

この感謝の風船レターをお送り頂いた日、  
上甲先生は岩手にお出ででした。

その夜、遅くにご帰宅してから、  
すぐに私に送ってくださったのです。

私は、先生にこのような  
メールのご返信をさせていただきました。

昨夜は、お疲れのところ  
先生のスターリマンへの感謝の風船レターを  
お送り頂きまして、誠にありがとうございました。

三人で拝見させて頂き、  
しばらく涙が止まりませんでした。

そして、あの日比谷公会堂で  
私を感じた、幸之助先生のスターリマンの姿。  
そして、上甲先生の志のスターリマンの真心が  
私の魂と共鳴していて、いっぱいいっぱいの感動で、  
ありがたくて幸せです。

11月9日、先生からお預かりした  
松下幸之助先生の志の想いと教えを  
皆様にお伝えさせて頂けるのがとても楽しみです。

上甲先生、本当に先生に心から出会うことが出来て  
感謝感謝申し上げます。

これからも 一生懸命にスターリマンを伝え続けて参ります。  
ありがとうございました。

---

☆次回予告☆

第3話「今を生きるスターリマンの物語」  
第1章は、11月19日(火)配信予定です!

---

さて、「今を生きるスターリイマンの物語」  
今回は、第3話へと突入します。

3人目にご紹介させて頂くのは、  
人が輝く生き方を伝えていらっしゃる  
人と経営研究所 所長の久保寛司氏です。

配信は、11月19日(火)の予定です。  
皆様、どうぞお楽しみに☆

---

## ☆後記☆

---

上甲先生にインタビューをさせて頂いた  
9月4日の2日前。

『昭和偉人伝』というBSのテレビ番組で、  
「松下幸之助氏」の特集を偶然にも観ることが出来ました。  
[http://www.bs-asahi.co.jp/ijinden/prg\\_001.html](http://www.bs-asahi.co.jp/ijinden/prg_001.html)

「何てタイムリー！」思わず手を合わせ、  
このご縁に感謝でいっぱいインタビューに臨みました。

上甲先生から、松下幸之助氏のお話をお聴きしながら  
テレビに映し出されていた松下幸之助氏の  
映像や肉声が 思い出されて、真っ直ぐに私の心に届いてきました。

きっとこのタイミングでの出会い。  
とても大切な意味ある出会いなんだわ。

私は今、信じたこの心、スターリイマンを伝える  
創作や活動に精一杯尽くして行きたいと  
心から素直に思っております。

すべてのご縁に感謝しながら…

はせがわ芳見

---

☆第2回「今を生きるスターリイマンたちの集い」☆  
～1年後のあなたに贈る幸せの未来予想図～  
ゲスト:久保寛司氏／高野登氏 2014年1月18日開催!  
<http://kokucheese.com/event/index/125936/>

---